

サステナビリティ重要課題と2030年目標

ライオングループは、2030年に向けた経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」の実現や、2030年までに実現する世界共通の目標「持続可能な開発目標(SDGs)」への貢献等を見据えた上で、2018年に「ライオングループ サステナビリティ重要課題」を特定し、2020年までの目標達成に向け施策を実行しています。

当社グループが常に社会とお客様から必要とされ、事業成長を続けるためには、より長期的視点で課題をとらえ取り組むことが重要と考え、2030年までの重要課題を再評価し、目標を設定しました。2030年目標では、重要課題は継続し、より高い到達レベルでの目標を目指し、目標達成の定量的な評価ができる指標を設定しています。

世界は、少子高齢化・気候変動・海洋プラスチック問題・感染症の急激な拡大(パンデミック)等、大きな社会問題に直面しています。

当社グループは、「サステナブルな地球環境への取り組み推進」と、創業以来一貫して取り組んできた、人々の幸せな毎日につながる「健康な生活習慣づくり」を最重要課題と定め、社会問題解決に事業を通じて貢献することを目標に活動を展開しています。その一端として新たなチャレンジをトピックスでご紹介します。



基本的な考え方

当社グループは、社是、経営理念に基づいた持続可能な事業活動により、人と地球の健やかな未来に向けてサステナビリティ重要課題に取り組みます。

サステナビリティ重要課題と2030年目標					
	中核主題	重要課題	目標	指標	貢献するSDGs
E	環境	サステナブルな地球環境への取り組み推進	事業所活動およびライフサイクルにおけるCO ₂ 排出量の削減を目指します。	●CO ₂ 排出量 ⇒2017年比で30%削減	3679 12131415 17
			3R(Reduce〈削減〉、Reuse〈再利用〉、Recycle〈再資源化〉)およびRenewable〈持続可能な資源の活用〉を推進します。	●再生プラスチックおよびバイオマスプラスチックの使用量 ⇒2017年比で倍増	
			ライフサイクルにおける水使用量の削減を目指します。	●水使用量 ⇒2017年比で30%削減(売上高原単位)	
S	コミュニティ参画	健康な生活習慣づくり	生活環境、身体、経済、情報・教育等の状況に関わらず、誰もが、必要なときに、いつでも、オーラルヘルスケアを行える機会を提供します。	●オーラルヘルスケアを提供した人数 ⇒10億人	34610 1217
	労働慣行	ダイバーシティの推進	国籍やジェンダー等を問わず多様な価値観や考えを持った人材が、個性や能力を存分に発揮して活躍することを目指します。	●多様な価値観の必要性を理解している従業員の割合 ⇒8割以上	5810
		ワーク・ライフ・バランスの推進	各国・地域の従業員それぞれが、生産性が高く働きがいを持って就業することを目指します。	●「働きがい」を感じている従業員の割合 ⇒8割以上 ●生産性(従業員1人当たりの利益額) ⇒2019年比で向上	38
		人材開発	「自ら考えて新たな価値を創造する人材」づくりを目指します。	●新たな価値を創造するために行動している従業員の割合 ⇒8割以上	5810
		健康経営の強化	従業員とその家族が、健康意識を高め、「健康な生活習慣」を身につけることを目指します。	●定期的に歯科健診を受けている従業員およびその家族の割合 ⇒8割以上 ●全従業員が健康づくりの目標に取り組んでいる	3817
		労働安全管理体制の充実	労働安全衛生に関する各国・地域の法令遵守、および安全意識と設備安全を徹底し、従業員が、安全、健康で快適に働ける体制を充実させます。	●重大な労働衛生に関する法令違反件数 ⇒ゼロ ●重大事故件数・重大災害件数 ⇒ゼロ	38
	人権	人権の尊重	『ライオン人権方針』に沿って、人権問題を防止する体制を強化します。	●自社グループおよびサプライヤーにおいて、人権に関する重大なトラブル件数 ⇒ゼロ	581016 17
	公正な事業慣行	責任あるサプライチェーンマネジメントの構築	『持続可能な原材料調達方針』や『ライオングループ サプライヤー-CSRガイドライン』に沿って、児童労働や強制労働、環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	●認証紙・パルプ、認証パーム油・パーム核油の調達 ⇒全量 ●認証パーム油・パーム核油の森林破壊ゼロを支持するサプライヤーからの調達 ⇒全量	5678 10121314
			『ライオン贈収賄防止指針』に沿って、汚職や贈収賄を防止する体制を強化します。	●サプライヤーにおいて汚職・贈収賄に関する重大なトラブル件数 ⇒ゼロ	151617
	消費者課題	お客様の信頼と満足の追求	お客様対応品質や商品・サービスの価値向上を通じて消費者志向経営を推進・強化します。	●すべての商品に消費者の意見が活かされている ⇒100%	31012
G	組織統治	リスクマネジメントの推進	リスクに関わる活動の網羅的・総合的なマネジメント、ならびに、情報漏洩防止等を担保するセキュリティ体制を強化します。	●経営に重大な影響を与えるリスクの発生件数 ⇒ゼロ ●重大な将来リスクへの対応に関する情報公開 ⇒年1回以上	812
		コンプライアンスの浸透	実効あるコンプライアンス活動を強化します。	●重大なコンプライアンス違反件数 ⇒ゼロ	51016
		グループガバナンスの強化	『コーポレート・ガバナンス基本方針』に沿って、経営の透明性と管理体制を強化します。	●「コーポレート・ガバナンス基本方針」に沿った情報公開 ⇒年1回以上	16

サステナビリティ重要課題と2030年目標

サステナブルな地球環境への取り組み推進

ライオングループは、地球規模で広がる環境問題に対して、パリ協定や持続可能な開発目標(SDGs)等の世界目標の達成に事業を通じて貢献していくべく、2019年に長期環境目標「LION

Eco Challenge 2050」を策定しました。「脱炭素社会」と「資源循環型社会」の実現を目指し、脱炭素、プラスチック、水資源の課題解決に向けた取り組みを具体化していきます。

LION Eco Challenge 2050

「人と地球の健やかな未来に向けて」

ライオングループは、事業成長を図りながら、脱炭素社会と資源循環型社会の実現に向けて、2050年に目指す方向を掲げ、サステナブルな地球環境に貢献してまいります。

- 1 事業を通じて、「脱炭素(気候変動)」と「資源循環(プラスチック、水資源)」の問題に取り組み、「人と地球の健やかな未来」の実現に貢献します。
- 2 環境に配慮した設計にもとづく商品やサービスの提供により、商品のライフサイクルにおける家庭での環境負荷を削減します。
- 3 暮らしの中で、ムリやガマンをしなくても自然にエコにつながる商品の提供とともに、生活者の皆様と双方向のコミュニケーションを行い、「エコの習慣化」を推進してまいります。



貢献するSDGs



「くらすこと」が「エコ」になるように

当社グループは、毎日の習慣を“リ・デザイン”する商品やサービスを、イノベーション(技術革新)や様々なステークホルダーとの連携により、生活者の皆様へ提供するとともに、双方向のコミュニケーションにより、「心地よくくらすことがいつのまにかエコにつながる生活」の実現を目指しています。そ

して一人ひとりの生活から地域コミュニティ、さらにはグローバルへ展開していきたいと考えています。



脱炭素社会の実現への取り組み

地球温暖化による気候変動は、世界中で異常気象をもたらす等、私たちの暮らしに大きな影響を与えています。ライオンの商品は、生活者の快適で便利なくらしに貢献している一

方、原材料調達から生産や配送等、事業活動に関わる段階で環境に負荷をかけており、特に家庭における商品の使用や廃棄段階の負荷が大きくなっています。

イノベーション(技術革新)への挑戦と生活者への新しい価値の提供

生活者の皆様が毎日のくらしの中で、当社の超コンパクト洗濯用液体洗剤(『トップ スーパーNANOX』等)を使用することで、清潔で快適な生活が実現できるとともに、CO₂削減、

プラスチック使用量削減、水使用量削減に貢献できます。このように「くらすこと」が「エコ」になる商品を拡充し、事業の成長と環境負荷低減の両立を図っていきます。



資源循環型社会の実現への取り組み

当社は、プラスチックを材料とする製品を製造・販売する企業として、プラスチック問題に対して果たすべき責任は大きいと考えています。そこで、2015年から使用済みハブラシを回収してリサイクルする取り組みを、テラサイクルジャパン合同会社と共同

で、多くの自治体や学校等にも参加いただき活動を推進しています。「ハブラシ・リサイクルプログラム」では、オーラルケアのリーディングカンパニーとして、生活者のオーラルケア習慣の促進を図り、健康の維持・増進を同時に目指しています。

TOPICS

自治体のごみ回収事業と連携したハブラシリサイクル活動

当社は、2020年4月から、本社所在地の東京都墨田区と協定を締結し、墨田区内公共施設や学校等教育現場(計85ヵ所)に回収BOXを設置し、使用済みハブラシを回収、

リサイクルを行うとともに、区内子ども食堂等を利用する子どもたちに歯みがき指導等を行い、オーラルケア習慣の普及、定着に協力しています。

TCFDへの対応

当社は、2019年5月に「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」提言への賛同を表明し、気候関連のリスクと機会が当社の経営におよぼす財務的影響の評価(シナリオ分析*)を開始しました。

今後は、これまでに得られた知見を活かしながら、シナリオ分析のレベルアップや対応策の検討を進めつつ、TCFDのフレームワークに基づく情報開示を進めていきます。
*環境省「TCFDに沿った気候リスク・機会のシナリオ分析支援事業」のもとで実施。



環境省ホームページで「TCFDを活用した経営戦略立案のススメ～気候関連リスク・機会を織り込むシナリオ分析実践ガイド ver2.0～」(2020年3月発行)が公開されています。
*当社の分析結果は、P140-147に掲載されています。
http://www.env.go.jp/policy/policy/tcfd/TCFDguide_ver2_0_J.pdf



サステナビリティ重要課題と2030年目標

健康な生活習慣づくり

ライオングループは、100年以上前からオーラルケア習慣の普及啓発活動を、日本に留まらずアジアにも広げ推進しています。当社グループのパーパス（存在意義）である「習慣を“リ・デザイン”する」に基づき、個人的課題や社会的課題への取り組みを通じて、より多くの人々の「健康な生活習慣づくり」に貢献すべく、さらなる新しいチャレンジを開始します。



2030年に向けた新たなチャレンジ

「健康格差」の縮小

人々の健康は、遺伝子や生活習慣といった個人固有の要因だけでなく、その人の生活環境における文化や価値観、社会的・経済的な地位等の社会的要因によっても左右されています。今後、この社会経済的格差による「健康格差*」が深刻化し、世界的に大きな課題になっていくとみられています。

当社グループは、次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーを目指す企業として、「健康格差」という社会課題に取り組むことで、事業と社会の共通価値を創造し、一人ひとりの「心と身体のヘルスケア」の実現に貢献していきます。

まずはその第一弾として、「健康な生活習慣づくり」への貢献度が高いオーラルケアにおいて、新たな事業アクションを展開していきます。

新たな事業アクション「インクルーシブ・オーラルケア」

インクルーシブ・オーラルケアとは

生活環境、身体、経済、教育・情報等の状況により生じたオーラルケア機会の格差を解消し、誰ひとり取り残さず、すべての人にオーラルケアの機会をサステナブルに提供することで、人が本来持っている“健やかに生きる力”をオーラルケアから引き出し、育むことを目指す活動。

取り組みの方向性と2030年目標

これからの取り組み

- オーラルケア機会の格差解消を通じて、事業機会を拡大しながら、「健康格差」の縮小に貢献



- IoTやAI等テクノロジーを活用した様々な商品やサービスの提供による貢献



現在の取り組み

- オーラルケア習慣の定着化
- 「予防歯科」習慣の普及等による一人ひとりのオーラルケア意識の向上への貢献

「健康な生活習慣づくり」の2030年目標

生活環境、身体、経済、教育・情報等の状況に関わらず、誰もが、必要なときに、いつでもオーラルヘルスケアを行える機会を提供します。

* 社会経済的格差による「健康格差」の専門家・千葉大学近藤教授 監修

清潔衛生習慣への取り組み

世界中で新型コロナウイルスへの感染が拡大する中、世界保健機関（WHO）や厚生労働省でも、感染症予防対策として石けんを使った手洗いを推奨しています。当社グループは、

ハンドソープや消毒剤を販売する企業の社会的責任として、商品供給はもとより、「正しい手洗いの習慣化」の普及啓発活動を従来、日本をはじめ、アジアでも実施してきました。

獅王日用化工（青島）有限公司



幼稚園や病院、公園で「正しい手洗い」の方法を伝達

Lion Corporation (Thailand) Ltd.



イベントで「正しい手洗い」を学ぶ学生たち

Southern Lion Sdn. Bhd.



従業員が工夫して「正しい手洗い」を子どもたちに指導

獅王（香港）有限公司



獅王家品股份有限公司



Lion Corporation (Korea)



従業員が子どもたちに「正しい手洗い」を指導

ライオン株式会社



学びながら、楽しく「正しい手洗い」を習得する子どもたち

Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd



幼稚園でクイズや、ライオンマスコットと一緒に楽しく手洗い

貢献するSDGs



ライオングループの目指すもの

当社グループは、これまでオーラルケアや清潔衛生分野において、事業活動と連動した「予防歯科」や「正しい手洗い習慣」等の「よりよい生活習慣づくり」に取り組んできました。それは、「事業を通じて社会のお役に立つ」という創業の精神を受け継ぎ、時代とともに変化する社会課題の解決に真摯に向き合うことが、事業の持続的発展と、一人ひとりの「心と身体のヘルスケア」に貢献できると信じているからです。

課題先進国といわれる日本での超高齢社会への対応等、近い将来にはアジア各国も経験することが予測されています。またグローバル化の進展により、感染症がまたたく間に世界中へ蔓延するパンデミックを引き起こしてしまう困難に直面しています。当社グループは、「健康で快適な毎日」と「健康寿命の延伸」を目指して、これからもグループ一丸となり「健康な生活習慣づくり」を通じて、人々の幸せな毎日に貢献していきます。